

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 31日

事業所名 ケアステキっず

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	75%	25%	・一階二階と人数分散できる部屋がある	・人手の兼ね合いで、分散時手薄に感じる事がある
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	・適切である	・人数的には足りているが、マンツーマン対応が必要な児童がいる時にはやや手薄な場合がある
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	75%		・一般の住宅と同じ仕様で作られている為、バリアフリー化は十分ではない
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	25%	75%		・一部の常勤職員で行ってしまっている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	50%	50%	・アンケート調査やメールにて情報収集を行っている。	・実施していても業務改善に結びついていない。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		・HP上で効果いしている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	25%	・外部講師にアドバイスを頂くこともある	・改善に繋がれていない為、改善の余地あり
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13%	88%		・研修内容・取り組み方に改善の必要あり
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	50%	38%	・ケース会議に参加している	・ケース会議が開催されていない児童については不十分な点もあるので改善の必要あり
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50%	50%	・記録ソフトを使用している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	・月ごとで担当スタッフを決めて取り組んでいる	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	75%	25%	・人気の活動と時間がかかる活動とを混合するようにしている	・ある程度固定されているプログラムもあるので、改善の余地あり。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50%	50%	・個々に合せて課題を決めている	・大まかに決めてしまっている為、細かく決める必要あり
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	63%	38%	・個々に合せて課題を決めている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	25%	75%		・担当表を作成し、支援内容や役割分担の確認をしているが、打合せが出来ていない事が多い、
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13%	88%		・支援後に集まることが難しく、振り返りをこまめに出来ていない。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	25%	75%		・記録が抜けてしまうことがある
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	・評価時期に見直しを行い、最新分を作成している	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	88%	13%	・ガイドラインに基づく支援を行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	その子供の事をよく把握している、常勤スタッフが参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	63%	38%		学校迎え時、ケース会議に連絡調整を行っているが、頻度がやや少ない
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	25%	75%		医療ケアが必要な児童の受入は現状行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	75%	25%	保育所等に見学に行き、情報収集を行っている。	就学後の新規児童については、情報収集の機会が少ない事もある
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	25%	75%		求められた場合には情報提供しているが、積極的にはできていない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	13%	63%		専門機関からの助言や研修等は実施できていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		活動する機会を持っていない
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	88%	13%	協議会には参加しているが、コロナ禍の為開催がない	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	88%	13%		しっかりコミュニケーションをとるための時間が確保できていない
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	13%	88%		実施できていない
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		契約時に説明をしている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	38%	63%		相談があれば都度対応しているが、積極的にその機会を作ることはできていない
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	88%		保護者どうしの連携支援はできていない
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情には都度速やかに対応できるようにしている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	75%	13%		HP上で公開している
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	*契約時に個人情報の取り扱いについては十分に説明している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	50%	50%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	38%	63%		*開設時に説明は行ったが、以後地域住民との関わりがない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	63%	38%		・各種のマニュアルは策定しているが、周知不足である
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		・避難訓練は定期的実施している
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	63%	38%		・虐待防止研修は研修メニューに加えている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	25%	75%		・対象となる児童がいない
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	63%	38%	アレルギーがある児童は調理前に家族様に確認している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	63%	38%	ヒヤリハット報告書を都度作成している	